

7月度の観察記録

カテゴリ : 2020年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2020-7-12

2020年7月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2020年7月12日(日) 9:30~12:15 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子
写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人17名, 子ども28名 天気: 薄曇り 今年の第2日曜日は何故か好天に恵まれずほとんど晴れていません。中でも3月、5月、6月は雨でした。でもこの日は空には雲が多めながらも久しぶりの日差しが届きました。今月は九州や中部で川が氾濫するなど例年になく大雨が降り続く中、梅雨の中休みの一日となり平和公園には終始気持ちのいい風が吹いていました。

里山の家での持ち込み観察項目: オオアオイトトンボ, ヒメアカネ

? 里山の家の前ケヤキの下に幼虫の大きなフンが無数に落ちていました。ケヤキを食べるモンズメのものと思っていたところ、地面を這っている大きな幼虫を見つけた男の子がいました。参加者の一人から蛹になるため木から降りて来たのだろうとの説明がありました。大坂池の横の広場ではクモの子のまどいがうごめていました。久しぶりに雨が止んだので、このあとお尻から糸を出して風に乗って飛んで行こうとしているのだろうということでした。捕まえたトンボにそのクモの子を食べさせようとする男の子がいて、みんなが集まってその様子を観察しました。トンボは翅を掴まれているにもかかわらず、与えられた子グモを次々と食べていました。その足元の草にはニイニイゼミの抜け殻が見つかりました。





ウンモンズズメの幼虫のフン クモのまどい ニイニイゼミの抜け殻 オタマジャクシ池の脇には
ミソハギが咲いていました。そして雨上がりのせいかキノコもたくさん観察できました。キノコに
詳しい参加者からその場で見られたのはヤマドリタケモドキとヘビキノコモドキと教えてもらいま
した。





ミソハギ ヤマドリタケモドキ ヘビキノコモドキ

また中道沿いに生えていたキノコを裏返すと
ひだの中に3mmにも満たない小さな昆虫が無数に入り込んでいるのが分かり、写真に撮って拡大したところハネカクシとわかりました。キノコを食べる仲間のようです。近くのアベマキの葉を裏返すと、孵化したてのガの幼虫がたくさん見つかりました。その卵の抜け殻の写真を撮ると、まだ孵化していない卵もあることがわかりました。畑のそばでカヤツリグサ科のヒメクグとメリケンカヤツリを比べて見ました。ヒメクグは在来種で、外来種のメリケンカヤツリとの大きな違いは茎の先端についている穂の数でした。メリケンカヤツリの穂は5個以上ついていましたが、ヒメクグの穂は1つだけでした。





キノコのひたの中か幼虫と抜け殻の卵 ヒメクグ 子どもたちがプラスチックケースを持って、しきりに中の匂いを嗅いでいました。ケースの中には甲虫が入っていて地面を歩いているところを捕らえたとのことでした。ゴミムシの仲間で、とても美しい色と模様をしていました。その場では種名がわからず、もしかしたらとても珍しい種かもしれないという人がいました。ジュズダマが欲しいという女の子がいたので、つどいの丘へ渡る橋のところで一緒に花を見ました。大人の参加者から実が採れるのは秋頃なのでそれまで待とうね、と教えられていました。シンジュの木には実がつき始めていました。細長い実の中に一つずつタネが入っているのが見えました。





ゴミムシの仲間 ジュズダマの花 シンジュの実
うという提案があり、みんなで目を凝らして観察しました。すぐに見つける子どももいれば、なか
なか見つからない大人もいました。見つかったのはマメキシタバとコシロシタバでした。コシロシ
タバは同じ木に2頭とまっていた。どちらもシタバガというグループのガで、下の翅には目立つ
模様がありますが、翅を閉じていると目立たず幹の模様になじんでいるように見えました。

アベマキの下で、その幹にガを採る





ガを探す マメキシタバ コシロシタバ

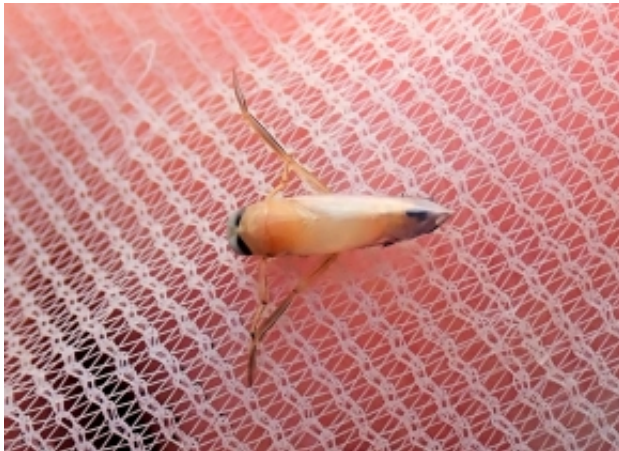
食べられた痕があり、主にはイナゴの仕業との説明がありました。あたりを見るとイナゴの幼虫がたくさんいました。田んぼに仕掛けたワナを上げると、アメリカザリガニがたくさん入っていました。ほかにはよく太ったマドジョウが入っていて、取り出してケースに移すと子どもたちは触りたい、掴みたい、と先を競ってケースに手を入れていました。でもうまくつかめずケースから外に落としてしまう子もいました。

田んぼではイネが育っていました。葉にはところどころ





ワカコが幼虫をザリガニ ワナにかかったマドジョウ 参加者の一人が田んぼの
昆虫を捕らえました。形はマツモムシによく似ていて一回り小ぶりなので初めはマツモムシの幼虫
かと思いましたが、写真を拡大すると別の種類の成虫でした。マツモムシは水面を仰向けになって
泳ぐ姿をよく見ますが、これは水中にもぐって泳いでいたそうです。この観察会では初めて見るマ
ツモムシの仲間でした。若い参加者がネプトクワガタを捕らえてきて子どもたちに見せるとみんな
興味津々でのぞき込んでいました。全国的に見るとレッドデータに記載されている県もありますが
東山の森では普通に見られるそうです。キノコに詳しい参加者がニオイワチチタケを紹介しました
。リング状の模様が目を引きましたが、もっと注目を集めたのは特徴的なその匂いでした。誰が嗅
いでも「カレーの匂い」とわかりました。チチタケと言うその名は、もう少し若い時には傘から乳
状の液が出ることからついているそうです。





マツモムシの仲間 ネブトクワガタ ニオイワチチタケ カエルの大好き**身体が透明な**
オタマジャクシを網ですくって捕らえました。又マガエルのオタマジャクシでした。以前からこの
田んぼの周辺で見つけていましたが、今年は出会えず心配していたそうです。珍しい姿をみんな
でじっくりと観察しました。終了の時刻が近づき、里山の家へ向け戻り始めました。途中の水辺で
ガマを見ました。円柱状の茶色い穂がたくさんついていました。一つの穂には無数の種ができるは
ずで、これだけの穂が種を飛ばしたら辺りはガマだらけになるはずがそうはならないのは何故だろ
う、と参加者が話していました。中道を歩いているところへ飛んできた**ヤマトタマムシ**を捕らえた
参加者がいました。その美しい姿に歓声が上がリ、みんなでしばし見とれていました。





透明なヌマガエルのオタマジャクシ ガマ ヤマトタマムシ 今月も密を避け、終了後の振り返りは屋外で飲食せずに簡単に行いました。関東では新規感染者数が減らず、今後も注意深く過ごす必要があります。梅雨明けが待たれる中、絶好の観察会日和の一日となりました。

平和公園での観察項目：ドロバチの巣、ウンモンズズメの幼虫のフン、ウンモンズズメの幼虫、羽アリ、キマワリの死骸、カダヤシ、ヤマドリタケモドキ、ヘビキノコモドキ、ミソハギ、クモの子のまどい、ニイニイゼミの抜け殻、オオシオカラトンボ、キノコ、キアシナガバチ、イセノナミマイマイ、ワラジムシ、イグチダケ、キノコにつくハネカクシの仲間、ゴミムシの仲間、アオスジアゲハ、オオミスジコウガイビル、オチバタケ、ダンゴムシ、ジョロウグモ、ガの卵と初齢幼虫、ソシンロウバイの偽果、カヤツリグサ、ヒメクグ、ショウリョウバッタ、サルトリイバラ、マメキシタバ、コシロシタバ、エビの仲間、ジュズダマの花、シンジュの実、ウラギンシジミ、田んぼにしかけたワナ、トリゲモ、イナゴの幼虫、コナギ、コマツモムシ、アメリカザリガニ、マドジョウ、ネプトクワガタ、ニオイワチチタケ、ヌマガエルのオタマジャクシ、ガマ、ウグイスの声、ヤマトタマムシ、ヤブキリ
?